

平成 27 年度 第 3 回習志野市スポーツ推進審議会 議事録

日 時 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 午後 3 時から午後 4 時
場 所 サンロード津田沼 6 階大会議室
出席委員 矢坂会長 及川副会長 堀川委員 秋田委員 河村委員 谷藤委員
平野委員 諏訪委員
欠席委員 渡邊委員
出席職員 植松教育長 広瀬生涯学習部長 井澤生涯学習部次長
片岡生涯スポーツ課長 田村係長 石井主事 森主事 戸辺主事
傍 聴 人 なし

<次 第>

1. 会長挨拶
2. 教育委員会 植松教育長挨拶
3. 議事録署名人選出
平野委員 諏訪委員
4. 議事

(1) 報告事項

①平成 27 年習志野市議会第 4 回定例会一般質問の報告について

【資料に基づき事務局より説明】

(説明概要) 教育委員会に係る質問は 11 名の議員から 15 件あった。そのうち生涯スポーツ課に関わる質問は、荒木和幸議員より「3. スポーツ行政」の質問があり、「(1) 市民参加型マラソン大会について」の質問に対して答弁した内容を説明した。また、同議員より 3 件の再質問があったが、いずれもマラソン大会開催の課題を明示するような内容であったことを説明した。

※質疑事項なし

②実花水泳プールの廃止について

【資料に基づき事務局より説明】

(説明概要)、平成 28 年 3 月第 1 回定例会において、スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正(実花水泳プールの廃止)について提案したこと及び、廃止とする理由を説明した。なお、公共スポーツ施設としての利用の廃止により、指定管理者が行っていた一般開放事業は廃止となるが、生涯スポーツ課で行っている学校体育施設プール開放事業の拡充を行うことで対応していくことを説明した。

【質疑内容】

委 員：年間の一般開放事業の利用実績はどの程度ですか。

事 務 局：平成 27 年度では、40 日間で 3000 人程度の利用がありました。

委 員：その方々は、その他の学校で行われる、学校体育施設プール開放事業でプールの利用はできるのでしょうか。

事 務 局：利用できます。ただし、実花水泳プール以外での開放を考えているため、実花水泳プールを利用していた方々には、少し離れた小学校へ行っていただくことに

なると思います。その負担がなるべく軽減されるよう、歩いて行ける範囲の近隣の小学校でのプール開放を検討する予定です。

③市民アンケート調査の集計経過の報告について

【資料に基づき事務局より説明】

(説明概要) 市民アンケートの結果について、今回は、スポーツ推進計画の柱である「する・みる・支える」の3つの柱を観点とした部分を中心に集計経過の報告をした。

また、最終的な回答数は、市民 3000 名に送付し、1050 名からの回答があり、男女、地域、年代別に均等に送付を行ったが、20 代の回答が一番少なく、60 代の回答が一番多かった。(約 2 倍差)

今後は、複数の質問や男女、地域、年代による傾向等について分析し、この結果をどのように具体的取り組みにつなげ、計画に反映させていくかを考えていく。

【質疑内容】

会 長：内容が多いので、事前に確認をしていない中では難しいかとは思いますが、今後の集計方法等について、委員の皆さんの意見や感想をお伺いしたいと思います。

委 員：3000 名の送付に対して 1000 名の回答というのは、想定範囲の回答数ですか。

事 務 局：想定範囲となります。1000 名の回答が頂ければ良い方だと考えていました。

委 員：するスポーツの集計結果の部分で国、千葉県と比較して、習志野市ではスポーツをする割合が 50%、国では 40%、県では 44%とありましたが、質問の内容や集計の方法は同じなのでしょうか。

事 務 局：習志野市では、選択形式で「毎日スポーツをしている」や「週 1 回スポーツをしている」等細かく分けていますが、国、千葉県では、単純に「週 1 回以上スポーツをしていますか」等の質問の形式となっていたので、質問や形式が全く一緒というわけではありません。

委 員：では、習志野市では「スポーツをしている」に含んでいた、「散歩、ウォーキング」は国、千葉県でも同様に「スポーツをしている」に含んでいたのでしょうか。

事 務 局：そういった詳細な部分は現時点で確認できておりません。

今回の国、県との比較については、県のホームページ上に掲載されているアンケート結果と比較し、提示させていただきました。今後、そのような詳細についても確認したいと考えております。

会 長：今事務局が話した通り、国、県と全く同じ内容でアンケートを行っているわけではないので、類似したものと比較した統計結果ということで、御理解いただければ良いかと思えます。

委員の皆様、その他の意見等がありますか。

委 員：分析をしていただいて、比較結果をまず出していただいて、それをどう生かしていくかが今後大事だと思います。

例えば「スポーツをしている」と回答している人の割合の中で「ウォーキング、散歩」を選択している人がダントツに多いので、その点をどう考えるかということがあると思います。もっとその他のスポーツに触れてもらうための対策を考えるのか、ウォーキング、散歩だけでもなるべく多くの方に行ってもらおうような対

策を考えていくのか等、色々と考えられるかと思います。いずれにしても、貴重なデータだと思しますので、分析し、生かしていただけたらと思います。

委員：する・みる・支えるの項目で分析されたというなかで、スポーツ・運動をしている人の割合は比較的高いと感じましたが、スポーツ・運動を全くしていない人の数値もすごく高いと感じますので、この全くしていない人たちを注目すべきだと思います。それから、スポーツ観戦に係るデータがありますが、何も見ないという人の数値も高いかなと感じます。ボランティアの部分は、参加したいと思う人が半数近くいるので、参加したいと思わない人に注目するよりは、参加したいと思う人をどのようにしたら参加できるかということを探求していく方が現実に繋がるかと思います。

いずれにしても、各地域が、均等に回答がとれているので、総合型の話など活動地域に関わる話に生かしていけるとと思います。

地域別でどのような結果が出るのか、大変興味深いです。

会長：これから結果を分析するのに参考になる意見だと思います。

事務局は今後分析し、関係者等の皆様へ報告していただきたいと思います。

委員：運動している人の割合は多いと感じました。

また、自由意見で施設に関する記載がありますが、施設についてもさらに情報公開、周知し、知っていただくことで広がりが見えてくるのではないかと感じました。

委員：ボランティア活動に参加したいと思わない人の割合が54%というのは多いと感じました。また、総合型地域スポーツクラブを知らない割合が80%、市民スポーツ指導員を知らない割合が78%と、もっと周知して、知っていただきたいと思いました。自分自身、総合型地域スポーツクラブに携わっている中で、広報活動も多く行っていたという意識でしたので、知らない人の割合の多さは意外でした。まず、参加する、しないかではなく、知らない人が多すぎるので対策を考えていけたらと思いました。

会長：私自身、市内のスポーツ大会等に参加してみて、ボランティアの参加自体は少なくはないと感じています。しかし、もっとボランティアをする人を増やしていくには、周知の仕方に創意工夫が必要であると感じています。

例えば国際千葉駅伝ですが、ボランティアに参加するとジャンパーが貰える等、人を惹きつけるような周知が効果的だと感じます。

また、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等、ボランティア活動に参加する人が少ない理由としては、参加する方法が周知されていないということが考えられると思います。周知方法を工夫し、さらに増やしていけるようにしていかななくては、今後活動していくことが厳しくなってくると思います。

この点も汲み取りながら、今後のアンケート分析をしていただけたらと思います。

委員：総合型スポーツクラブについては、各中学校区1つのクラブの設立が当初の目標であったと思います。その中で、現在では3つのクラブが設立されており、クラブのない学区もある状況かと思っています。そういった点では、クラブのない学区の人は存在を知らないということは仕方ないのではと感じました。

スポーツ推進委員についての部分では、まず、団体が高齢化している状況だと思

います。若い人の協力を得るのは難しいとは思いますが、年代別で委員を増やしていく工夫が必要だと感じました。

また、現在スポーツをしている人が 50%程度いるという中で、スポーツをこれからやってみたい人の傾向をみると、ウォーキング、ジョギング等、手軽なものを求めている傾向が高いと感じました。

会 長：それぞれの団体の構成を考えたらよいのではという意見ができました。幅広い世代にスポーツを広めるという上でも必要なことだと思いますので、事務局で検討いただけたらと思います。

スポーツ推進委員、市民スポーツ指導員には定年制はありますか。

事務局：基本的に定年制はありません。

会 長：定年制については難しいところではありますが、若い人を巻き込んでいくというのはひとつの課題ですね。

事務局：市民スポーツ指導員は習志野市の独自の制度です。市民スポーツ指導員として、ある程度地域の方々と交流をしていただけてからスポーツ推進委員に選出されるという流れとなっています。最近ではその中で、若い方々も少しずつ増えてきております。また、市民スポーツ指導員になるための養成講座を 3 年に 1 回という割合で開催しておりますが、そちらも以前と比較して若い年代の方々の参加が増えてきております。このようなことから、これから新しい世代の方々がスポーツ推進委員にも入ってくるが見込まれております。

スポーツ推進委員、市民スポーツ指導員については約 30 年、総合型地域スポーツクラブについては約 15 年続けてきておりますが、認知度が低いという結果については重く受け止め、今後どのように取り組んでいけばよいのかを考えていきたいと思っております。

委 員：スポーツの嫌いな子供が少ないという結果が意外でした。現在、ゲーム、スマホが流行っているのでインドア派の子供たちがもっと多いと思っていました。ただ、アンケートを取れていない部分の子供たちはそうではないかもしれないと思っておりますのでこれだけを鵜呑みにせず、この部分についても、もっと深く分析できたら将来的にも役立つデータだと思えました。

また、同様の質問を大人にはしていないようだったので、試してみてもうどうだったのかなと感じました。

事務局：大人へのスポーツの好き嫌いに関する質問については、スポーツをしない理由の中に、「興味がない」という選択肢を設けていました。ですが、おっしゃる通り、単純に好き嫌いという質問を設けるとよかったと思っております。

会 長：折角今回このような形でアンケートを取ったので、参考にして、次に生かしていただけたらと思います。委員の方々は再度資料をご一読いただき、お気づきの点がありましたら、事務局へご連絡いただけたらと思います。

(2) 協議事項

①平成28年度 生涯スポーツに係る主要事業概要について

【資料に基づき事務局より説明】

(説明概要)平成28年度についても例年通り、スポーツ推進委員、市民スポーツ指導員、総合型地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ振興協会といった団体と連携協力し、スポーツ推進計画に基づいた事業を展開していくことを説明した。また、平成28年度に行われる主な取り組み(市民スポーツ指導員養成講座の実施、実花水泳プール廃止に伴う学校プール開放の拡充、東部体育館中規模改修に係る調査及び設計の実施、ちば施設予約システムの更新)について説明した。

【質疑内容】

- 委員：アンケートの結果で、団体等の知名度が低かったので、間に合うようであれば、あまりお金のかからない範囲内で、情報の周知等を盛り込んでいければ良いのではと思いました。
- また、平成28年度すぐには難しいかもしれないが、健康増進のためにスポーツをやりたいというニーズもアンケートに結構あったと思いますので、生涯スポーツ課の管轄かはわからないが、そういった人を増やすような施策をやっていく必要があるかと思いました。
- 委員：学校体育施設開放事業の部分で土曜日・日曜日・祝日の日中、土曜日夜間の体育館の開放とありますが、日曜の夜は開放されていないのですか。
- 事務局：基本的に日曜日の夜は学校の判断となり、開放している学校もあります。
- ここに記載している土曜日・日曜日・祝日の日中、土曜日夜間が生涯スポーツ課の管轄となります。また、平日の夜間についても体育館等の開放はされていますが、そちらについてもあくまで学校の判断となっており、学校へ申し込んでいただくという仕組みとなっております。
- 委員：学校開放の関係になりますが、先週、省エネウィークがあったなかで、耐震工事もあったかと思います。省エネウィーク、耐震工事の両方で体育館等の使用ができないのは市民にとって負担になると感じたので、特別に省エネウィークを開放する等の判断があったら良かったと感じました。
- 夏にはクールアースウィークがあるので、その時に何かあった場合には何か考えていただけたら良いかと思いました。
- 会長：そういった点も市民サービスということで、対応の工夫があれば利用者側も喜ぶということだと思いますので、事務局にはサービスの向上をお願いしたいと思います。
- 委員：記載されているのは主要事業なので、実際にはこれ以外の事業もあると思うが、スポーツ推進計画が知られていないので、それをもっと周知して欲しいと感じました。
- また、する・みる・支えるの柱の、みる・支えるの部分が主要事業の中で少なく感じるので、みるを推進するための何かを考えたり、支えるの部分で市民スポーツ指導員等以外のボランティアを考えたりですとか、みる・支えるの部分の施策についても考えておかななくてはならないと感じました。
- 会長：ボランティアに参加しやすいような良い方法を考えていただければ効果はある

と思うので、来年の課題として考えていただきたいと思います。習志野市は一市民、一ボランティアということも掲げられていますので、知恵を出し合って考えていけたらと思います。

委員：年に5回開催しているスポーツ奨励大会とありますが、予算はどの程度でしょうか。5回を10回、20回にしたりして、月1回、月2回程度の開催ができるとなれば、段々と知られていくのではないかと思います。

事務局：1事業約20万円程度の予算です。現状では10回、20回開催する予算はありません。

委員：この予算はこれ以上伸ばすことは難しいのですか。

事務局：難しいと考えます。また、この奨励大会の主催についてですが、スポーツ推進委員50名と生涯スポーツ課の8名の職員が中心となって動いており、奨励大会の回数を増やすのは人的にも厳しい部分があります。

委員：そうすると予算的にも、人数的にも難しいということですね。

事務局：そうなります。ここに載せている他にも事業があるため、生涯スポーツ課の職員8名で受け持っていく量にも限界があります。

また、この奨励大会の他に市民スポーツ指導員における市内各16地区で開催している地区事業があります。各地区で2事業以上開催していただいていることでもあります。やはり周知がしきれていない状況ですので、各地区における周知の方法は考えていきたいと思います。

委員：予算ありきの中で、予算的に限界ということだと、この場で協議をしても発展させていくのは難しいだろうと考えます。発展させていくために企画を考えて、予算をとっていかなくてはならないと思います。

予算や人的な部分でアグレッシブさがないと発展していかないだろうという印象を受けました。

会長：現在の習志野市のスポーツですが、競技スポーツと生涯スポーツの2つに分かれると思います。生涯スポーツのひとつとして総合型地域スポーツクラブ等があるわけですし、そして生涯スポーツを推進するためにスポーツ推進委員がおり、サポートするための市民スポーツ指導員がいると思います。

競技スポーツでは、習志野市では体育協会等があります。この団体については自主団体であり、色々なことをやってもお金にはあまり関係ないと考えます。しかし、生涯スポーツに関して、生涯スポーツ課が事務局をやり、推進していくことは限度があると思います。現在取り組んでいる事業がこれだけではないということもあるので、そこも踏まえて奨励大会は5回の開催となっています。仮に予算が取れても生涯スポーツ課が事務局としてすべて請け負うということは難しいと思います。

委員：あとは、毎年開催内容が同じと感ずるので、その部分は種目を変えるですとか、何か変えていかなくてはならないと思います。

事務局：これまでも今あるものと少し違うものやっちはいましたが、ここ3年間は同じ内容となっています。また、歩け歩け大会等、毎年恒例で、それを楽しみにしている人も多く、伝統となっているものもありますが、現在中心となっているスポーツ推進委員の中では、奨励大会をどうしていくかについて検討し、少しずつですが、変えていく方向にもあります。皆様の意見を含めて、伝えなが

ら、また新しいものに変えられるものは変えていきたいと思います。

委員：この奨励大会の種目というのは、5 種目を通して色々な世代が参加できる大会となっており、バラエティに富んでいると思います。私自身、スポーツ推進委員として関わっていますが、段々と種目も良くなってきている印象を受けています。

会長：資料上に書ききれないことはたくさんあるということですね。奨励大会だけでなく、それぞれの皆様が、各団体で手間暇かけて活動されていることだと思います。しかし、歴史があるからといってずっと同じことをやるというのもいいことではないと感じますので、その点は創意工夫していただければと思います。また、できるだけ皆さんに参加していただける工夫は必要だと思いますので、お願いしたいと思います。

最後に、今回はアンケートの結果を踏まえて平成 28 年度に生かしていくということがあります。また、今後の生涯スポーツ課の事業についても、これから考えていかなくてはならないと思います。委員の皆様には、アンケートを一読いただき、事業に組み込めるようなことがありましたら、事務局へご連絡いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

5. その他

※特になし

6. 連絡事項

事務局：平成 28 年度についても、全部で 3 回の会議を予定しています。7 月、11 月、2 月の水曜日の開催を予定しています。第 1 回の審議会は、7 月 13 日（水）午後 3 時から仮庁舎 3 階大会議室にて行いたいと思います。

会長：では、終了いたします。本日はお疲れ様でした。